

令和6年2月22日

安芸市福祉事務所
所長 長野信之 様

安芸市立井ノ口保育所
所長 小原和香子



令和5年度井ノ口保育所園評価報告書

1 保育所における自己評価の記録

月	自 己 評 価	月	自 己 評 価
4月	○園経営計画の作成 ○本年度の重点目標の設定 ○園評価項目・指標の設定	11月	○保護者園評価アンケート実施
6月	○職員への園経営計画・園評価計画の説明と共通理解 ○保護者会へ園評価の説明	1月	○アンケート結果集計・分析
8月	○中間評価の実施（職員の自己評価・園の自己評価）	2月	○保護者へアンケート結果の報告 ○最終評価の実施 （職員の自己評価・園の自己評価）
9月	○設置者への報告、改善策の検討		○設置者への報告、改善策の検討

2 最終評価結果

総括的な自己評価結果と改善点について

<成果と改善点>

各職員が自分の課題を考えながら熱心に保育に取り組んできた。日々子どもの思いを大切にしながら子どもの自主性が育つように考えて保育を展開していくことができ、子ども達も友達と一緒に思いを伝えながら遊びを展開していく姿が見られ始めてきた。

学校や地域との交流もでき、保育活動を理解してもらう良い機会となったが、全体理解までには至らず伝える難しさを感じると共に、それらがこれからの課題となった。

安全性については、一部固定遊具の修繕や交換ができ、ヒヤリハットがあるたびに保育者同士の行動や連携を反省・再確認を行いながら保育を行なうことで、全職員の安全に対する意識を高めることができた。月1回の避難訓練や防犯訓練もロールプレイを取り入れたことで、それぞれが多様な考え方のシミュレーションを行うきっかけとなった。

☆保育・教育活動の充実

① 豊かな感性と表現力を育む保育の取り組み

子ども達の思いを大切に保育を行ってきたことで、子ども達が友達と一緒に積極的に遊ぶ姿が見られるようになってきた。また、子ども達の遊び方にも変化が見られ、子ども同士で話し合ったり遊びを考えたり行動したりと、主体的に遊びを展開できるようになった。

給食担当者は、多様な食材を使って子どもの遊びにつながるキャラクターを作り、五感を刺激しながら給食が見た目にも楽しく、子ども達の遊びのイメージにつながるように工夫することができた。

② 関係機関と情報共有を行い支援に取り組む

個々の発達を捉え、職員会等で話し合いながら全職員でそれぞれの発達に合った支援を行ってきたことで、子ども達の発達につなげることができた。必要な時は関係機関と連携を取り話し合いながら子どもにとってより良い支援を考えて発達を促してきた。

支援ミーティングでは、保護者の悩みを聞きながら専門機関・保健師と連携をとって、支援の仕方を考えて子どもが成長できるきっかけを作っていくことができた。

◆職員の育成・資質向上や運営

① 安全点検や職員の安全対応能力の向上を図る取り組み

遊びや散歩中での子どもの動きを事前に把握をして、危険なところは改善をしたり、危険な場所に行かないように知らせ、常に子供から目を離さないようにして安全に気を付けてきた。

固定遊具については、定期的にチェックを行い危険がないようにし、破損部分は修繕を行ったり新規遊具に取り換えた。ただ、まだ全遊具は修繕できていないので今後も順次修繕を行っていく。

定期的な避難訓練や防犯訓練も行い職員の安全への意識も高まったが改善点も見られたので、職員と話し合い今後につなげていく。

◎地域に開かれた保育作り

① 子育て活動の理解と協力・保育活動の情報発信と理解

保護者には職員同士伝わりやすいお便りの書き方を話し合い意識して作ったり、子どもの活動を登降所時に家庭に知らせることで子どもの成長に大切なことを理解してもらえるようにしてきた。1 日保育者体験では参加者には日々の保育での子どもの姿を見てもらうことができた。

地域や小中学校と交流をし、活動を通してお互いの思いを伝え合ったり保育の活動発表では、保育で大切にしていることを知らせることができた。

ただ、自分たちが思ったより理解してもらえておらず、今後一層伝え方の工夫が必要と感じた。

給食担当者は、給食便りを出すことで家庭への食についての関心作りとし、アドバイスをするきっかけとすることができた。

園評価

(井ノ口保育所)

経営の柱	今年度の重点目標	評価項目	評価指標と評価結果				分析・考察
			取組指標	結果	成果指標	結果	
☆保育・教育活動の充実	一人ひとりが自分の思いを出しながら、意欲的に遊ぶための環境づくり	〔全体的な計画・教育課程〕 豊かな感性と表現力を育む保育の取り組み	4 感性を豊かにし、自分たちで考えて遊べる環境づくりをする	3.5	4 感性を持って自分と友達の思いを共有しながらより楽しい遊びへと展開していく	3.4	一年を通して子ども達が友達と思いを共有して楽しい遊びを考えながら展開していけるように、環境作りをしたり支援をしてきたことで、子ども達の感性で子ども達が考えた遊びを展開できるようになってきている。 給食では、食材を使ってキャラクターや関連した物を創作して、行事に向けた取り組みの世界により入っていけるようにしたことで、より子ども達がイメージしやすくすることに貢献できた。
		〔特別支援教育・保育〕 (障害児保育を含む) 関係機関と情報共有を行い支援に取り組む	3 それぞれの思いが共有できる遊び環境にしていく		3 友達とお互いの思いを認め合いながら遊びを展開していく		
			2 色々な教材を提供して個々の感性や表現力が付くようにしていく		2 友達と思いを共有しながら遊ぶ		
			1 好きな遊びができる環境を整える		1 自分の思いで遊ぶ		
◆園員の育成・資質向上や運営	共通課題を理解し、課題にともに向かう職員の協力体制づくり	〔安全管理〕 安全点検や職員の安全対応能力の向上を図る取り組み	4 関係機関と協力し、よりよい支援とする	2.9	4 個々に合った支援を行いながら子どもの発達につなげていく	3.2	個々の発達を捉え、それぞれの発達に合った支援ができるように職員が話し合い、協力して来た。 また、関係機関と話し合い連携して支援の仕方を考え、実行することで発達へとつなげることができた。
			3 関係機関と情報共有し、支援へとつなげていく		3 関係機関と情報共有をしながら支援している		
			2 職員同士が情報共有して支援していく		2 職員会等で子どもの姿を話し合い共有する		
			1 子どもの姿や発達を理解する		1 遊びや生活の中から子どもの発達を理解することができた		
◎地域に関わられた保育作り	保護者や地域とともに歩んでいく保育所づくり	〔保護者・地域との連携〕 ・子育て活動の理解と協力 ・保育活動の情報発信と理解	4 場所や状況に応じて自然と安全対策に取り組むことができる	2.9	4 自らが色々な場面で考えて安全対策に取り組めた	3.1	子どもの動きを把握して、危険があるところを事前に察知し、職員が連携して安全に遊べるように配慮してきた。固定遊具の安全については定期的に点検したり、遊ぶときにチェックをして安全性を確認してきた。破損部分は報告をして修繕を行っているが、まだ十分ではなくこれからも修繕計画を行うようにしていく。 定期的な避難訓練や防犯訓練も行ってきたが、反省することもあり、職員が一層の安全性を意識することが必要。
			3 危険な場所の安全対策を行う		3 職員が協力して安全対策を行うことができた		
			2 危険な場所や物があると職員や子どもに知らせる		2 危険な場所や物があると、職員や子どもに知らせることができた		
			1 安全チェックリスト等を使って安全対策に取り組む		1 安全チェックリスト等を使って安全対策に取り組めた		
			4 保護者や地域の方と連携して保育作りをする	3.2	4 お互いを理解しながら共通理解をもって保育づくりができた	3	園外散歩や行事に参加をして地域や学校との交流をしてきた。それらに参加する中で、保育活動で大事にしていることを伝えたり、お便りで伝えて理解してもらえようとしてきたが、十分理解してもらえていないこともあり、伝えることの難しさを感じた。 なお、これからも伝え方を工夫しながら保育を理解してもらえるようにしていく。
			3 保育活動とお便りを通しての子育て理解と共有		3 保育活動とお便りで保育を理解共有へとつなげてきた		
			2 保育活動に参加しての子育ての理解と共有		2 保育活動に参加してもらい、子育てを理解してもらえた		
			1 保育活動をお便りで知らせる		1 お便りで保育活動を知らせることができた		